

# 反弾圧の偉大な勝利かちとる



82. 9. 4

No. 1138

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五・六(公衆電話)三三三二七二〇七

## 「酔客による乗務員への暴行事件」(3/2)成田駅ホームを口実とした成田警察署の不当介入・弾圧の策動を、ついに完全粉碎!

勤労千葉一三〇〇すべての組合員の皆さん!! 全国の闘う仲間皆さん!! 警察権力による不当弾圧!! 勤労千葉組織破壊攻撃を粉碎する闘いにおいて、ついに我々は偉大な勝利をかちとったことを、こみ上げる勝利の確信と喜びをもって、ここに報告することができる。

### 成田署、「出頭命令」攻撃を断念!

『日刊』紙上で既報の通り(6月21日付、7月8日付)成田警察署は、去る3月21日に発生した成田線及び成田駅ホーム上での、反動的な酔客による勤務中の電車乗務員(勤労千葉成田支部組合員)に対する全く許せない暴行事件を口実に、全く白黒を逆転させた不当この上ない弾圧・介入をはかってきた。成田警察署は「5月1日になって、その乗客から告訴状が出たから」と、その一方的な虚偽の申し立てのみを唯一の根拠に、再三再四にわたり、わが成田支部の仲間2名と国労成田車掌区分会の組合員1名に対し、あたかも「加害者」犯人であるかのようにきめつけて「任意出頭」攻撃をかけてきたのである。5月6月7月8月と異常な執念をもやして、本人へはもちろん家族や当局へも圧力・どうかつをかけ「出頭しないのは後暗いところがあるからだろう」「出頭しないのなら逮捕するぞ」「白状しろ、ウソ発見器にかけろぞ」などと予断と憎悪もあらわに断じて許せない人権侵害の取り調べデッチあげ逮捕・起訴組織破壊を狙ってきたのである。

我々そして弁護団は、当該の仲間を先頭に、成田支部全組合員の総決起体制を築きあげ、まずなによりも、いかなることがあろうとも警察権力の捜査などには一切協力しない。任意出頭拒否、完全・非転向の根本原則を堅持して、怒りも新たに連日の大衆的抗議闘争・支部ろう城体制を固め、4ヶ月間の闘争を継続してきた。

この闘いの中で完全に追いつめられた成田署と反動的酔客は、万策つき、ついに8月末「告訴状」そのものごとりと下げ、捜査を正式に断念せざるをえないところに追いこめられてしまったのである。

### 勤労千葉の正義と総決起が勝利した!

すべての組合員ならびに全国の闘う仲間の皆さん!! この勝利は、実に偉大であり、教訓に満ちている。

この勝利の教訓の第一は、まずなによりも当該の3名の仲間、および家族自身があらゆるどうかつに屈することなく、勤労千葉と弁護団を信頼し、断固として「任意出頭拒否、完全・非転向」の労働者階級としての根本的立場に立ち、最後まで毅然と貫き通したことが、権力の介入を封殺したことである。

第二に、たとえ乗務中の日常的な「トラブル」を契機としたものであれ、国家権力は、三里塚・ジェットを闘い臨調攻撃に反撃していく労働運動の中心柱としてのわが勤労千葉に、たえず介入と弾圧の政治的意図をもって狙

っている事を、攻勢的にあばき出し闘いぬいたことの勝利であり、勤労千葉の正義の路線そのものの勝利である。第三に、三人の仲間を包みこみ守りぬいて、支部全体が職場集会・成田署抗議・駅頭大宣伝・ろう城等々、ありとあらゆる大衆的・攻勢的弾劾闘争に総決起したことが権力を追いつめた事である。

第四に、口先では「反ポリヤク、反弾圧」をととなえながら、闘う労働者には背後から暴力で襲撃し、国家権力には卑劣に屈服し身をすりよせて「告訴」弾圧要請のタレこみを行うという腐りきった勤労「本部」革マル反動分子の路線を、「労働者たるもの、こうあってはならない見本」として徹底的に見すえて闘ってきた、わが勤労千葉一三〇〇組合員一人一人の苦闘とわが勤労千葉の正義の立場が勝利したのである。

### 勝利の教訓を全体のものに

この偉大な勝利を勝ちとったわれわれは、一方でまだ、元佐倉機関区に広島から助動にきていた「本部」革マルころび屋小川建二のデッチ上げタレコミによる6名の仲間(佐倉・成田・幕張・勝浦)への権力の不当な「任意出頭命令」攻撃とも、現在なお緊張の中で、この一貫した原則の立場を堅持して、スキを与えず対峙し闘い続けている。更に、「3・13ジェット燃料輸送阻止ゲリラ」を口実にフレームアップを狙った不当自宅捜索攻撃を弾劾して、不当押収品の全面返還のための闘いを現在もおし進めている。これらの反弾圧の重要な闘いにおいても、われわれは必ずや圧倒的勝利を勝ちとるのであることは疑う余地はない。全ての皆さん!! 権力の弾圧をはね返し勝利して、もっと力強く闘って前進するという労働者階級の闘い方とは、まさにこうい闘いをいうのではないだろうか。

勝利の教訓を全国・全職場で全員のものとし、確信も高く更に前進していこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

「酔客(?)」の暴挙——  
——今度は千葉駅で..?!



勤務中の乗務員に「足をへし折ってやるうか」とホームでからむ(8月31日・18時ごろ)

許さないと、土屋粹

(裏面に つづく)

# 悪質な「白色テロ」の恫喝をくり返して 加えた 土屋粹 弾劾!

8月31日夕刻  
千葉駅  
ホーム上にて

八月三十一日、十八時ごろ、私服姿のデッチあげ「千葉地本」書記長の土屋粹(つちやすすくろ)が、千葉駅七・八番線ホーム上で、乗務折り返しのためホームを歩いていた勤労千葉組合員A君をつかまえ、いきなり「お前はなままきだ!! そのうちピュッ。(ママ)にならないように気をつける」などと、断じて許せない差別言語までまじえて、しつこくからんでくるという事件が生じた。

何ごとか、とホーム上の乗客がとり囲んで見守る中で、土屋粹は「お前はおれの後輩のくせしてなままきだ!!」身体に気をつけるヨ、「いい気になるな」などと反動的なテロのドウカツをくり返した。

A君は、自分は今乗務についている最中だということ、土屋粹に念をおした上で、「それはどういう意味だ。重大な発言だぞ」「あんたが正しい事をやっているのから先輩として認めるが、今のあんたのやっている事は先輩として胸張っていられるような事か」とき然と反論しはじめると、しだいにたじろぎながらも、「うるさい!! とにかくなままきだ。そのうちやってやる」などと大声でなおもしつこくからんできた。



「6・12」才九回公判の「本部」派動員、これで全部(8月31日、千葉地裁前)

弁護士含めて、たったの12名! 一般組合員からは完全にそっぽをむかれ、全員革マルの裸動員で、消耗しきる「引率」責任者—今泉と土屋粹。(最後から離れてトボトボついてくる2名)

勤務中の仲間や駅員がかけつけ割って入り、なおもからむ土屋粹をひきもどし、しばらくしてかけつけた千鉄局の課員があわててどこかへ土屋粹をつれてゆき保護したのであるが、これを目撃した仲間の話したと、土屋粹はかなり酒くさく、足もともふらついていたようだったともいっている。

## 腐敗と消耗深める土屋粹

しかし、勤労千葉の分離独立以前より「本部」革マル反動分子と密通し勤労千葉の運動と組織を裏切ったばかりか、デッチあげ「千葉地本」の書記長としてそれ以降も数かきりない裏切りと暴力的敵対を働き続けている土屋粹が、いまさら「先輩」風をふかせて、勤務中の電車運転士に衆目注視の中だからみ、このようなテロのドウカツを加えるという汚いことなど、断じて許せない!!

## 破産と腐敗の実体をさらけ出す デッチあげ「千葉地本」

しかし、この「八月三十一日の十八時ごろ」といえば、『日刊』第一一三六号で既報の通り、当日午後・千葉地裁において「6・12デッチあげ事件」の第九回公判が十六時二〇分ごろ終了しているが、土屋粹は、この日の動員の「引率」責任者として、札つきの革マル分子嶋田誠や齊藤吉司、それに盛岡からの帰任者・軽薄革マル追随分子・永島やさっそく狩り出されてきた東京から千葉への送り込み革マル分子・海空洋好らと行動を共にしての直後である。

この「6・12」公判は、回を追うごとに彼らの動員は一般組合員からはそっぽをむかれ、札つきの革マル分子のみの裸動員に終始しているばかりか、法廷内ではわが勤労千葉の反撃にさんざん打ちのめされっぱなしである。このあせりと打撃ゆえに、その「引率」責任者の大役をつとめさせられるたびに目に眼に見えて消耗していく土屋粹、しかし、革マルとゆ着することにその白色テロ集団としてのえげつない卑劣な体質だけはだんだんと見習って身につけてゆく土屋粹。

この「6・12公判」の実体と土屋粹の腐敗・消耗ぶりは、まさにデッチあげ「千葉地本」の現在と未来を象徴する見本である。  
土屋粹よ!! いかにか公判廷でメロメロにうちくだけられ消耗してしまったからとはいえ、革マル動員者共々ヤケ酒におぼれる公判「総括集会」とは、いくらなんでもみっともないのではないのか。かつての「オニの勤労」変じて「大トラの勤労」に名を汚し切らないうちに、お先まっ暗なデッチあげ「千葉地本」などさっさと解散した方がいい。

われわれは、土屋粹のこの日のホーム上での、卑劣かつ反動的な「テロ宣言」の暴挙は、断じてあいまいには見すぎさない。自己批判するまで徹底的に責任を追及する。